

「本場の味」で舌を魅了

「香住のかにすき」 全国鍋GP 3位

かわらず、2日間で約2800食を販売。並み居るライバルを押しよけ、「かにすき」の本場の底力を示した好成績に、関係者たちは喜びに沸いている。

(金海隆至)

姫路

姫路市でこのほど開かれた、ご当地鍋の日本一を決めるコンテスト「ニッポン全国鍋グランプリ」で、香美町商工会が出品した「香住ベニガニのかにすき」が3位に輝いた。初参戦にもか



ニッポン全国鍋グランプリで3位に輝き、カニサイン、で喜びを表現する香美町商工会関係者＝香美町商工会館

初参戦で2800食販売

同コンテストは全国から約2000団体が出場し、26、27日の2日間で計10万3千人が

訪れた。来場者による投票の結果、神河町の野外活動施設「グリーンエコー笠形」が出した「和牛の柚子とろろすき焼き」がグランプリを獲得。「札幌スープカレー鍋」が2位に入った。

香美町商工会は、食材の香住ガニを但馬漁協から格安で調達し、3度の試食を重ねて決めた自慢のレシピで挑んだ。30日に同商工会館（香美町香住文吉公）で

い」と話した。

会場の販売ブースでは、女性部の主婦らがフル稼働し、熱々の鍋を提供し続けた。3千食分のガニを準備していただけに、「本当にさばけるか不安だった」と振り返るが、天候に恵まれた最終日は、長蛇の列が途切れなかったという。

「鍋の見栄えも味も最高だった。売り上げた数なら日本一では」と、現地入りした観光部会員の西本庄作さん(62)は胸を張る。香住

